

- 近年の激甚な水害や、気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策、「流域治水」を計画的に推進することを目的として「流域治水プロジェクト」にもとづく取組状況についてのフォローアップ等を行うため夕張川上流地域部会を開催した。

日 時：令和4年1月20日(木) 13:30~15:30

開催方法：WEB会議

構成員：北海道開発局(札幌開発建設部)
北海道森林管理局(空知森林管理署)
国立研究開発法人森林研究・整備機構
森林整備センター(東北北海道整備局)
夕張市、由仁町、栗山町
北海道(空知総合振興局、胆振総合振興局)

オブザーバー：気象台(札幌管区気象台)
北海道警察

報告のあった自治体の取り組み事例

- ・非常用発電機の設置、発電機等の取扱い操作及び点検要領説明会の開催
- ・河川氾濫、土砂災害を想定した総合防災訓練
- ・WEB形式による防災学校、ハザードマップを用いた出前講座、防災講話等を通じた防災意識や知識の向上
- ・発電機等の取扱い操作及び点検要領説明
- ・緊急浚渫推進事業計画に基づく普通河川の浚渫

など

地域部会の様子(WEB開催)



自治体等主な会場



江別河川事務所



札幌開発建設部

※写真を掲載しているのは参加者(会場)のうちの一部です



夕張市長

代理出席：総務部総務課長
消防本部予防課長

- 防災教室において警戒レベルの説明と、地震を想定した危険箇所、避難所、避難経路などグループ討論形式で行った。
- 21カ所ある各地区の生活館あるいは集会場等に、生活機能改善ということで発電機一式を整備。
- 防災講話や水防訓練・住民避難訓練などを実施し顔の見える関係を続けていくことが大切だと考えております。災害を想定した情報伝達訓練などもやっていきたい。



由仁町長

代理出席：総務課主査

- WEB形式でハザードマップを用いた防災教育訓練や防災教育を実施。
- 非常用発電機20台を整備、避難所のテントも購入し避難所対策について一步前進。
- ハザードマップを更新して、全戸配布済み。
- 昭和56年災害を現場で対応した人がいなくなっている中、水の怖さや危険を体験を通じて伝えていくことが今後の検討課題。



栗山町長

代理出席：
総務課広報・防災・情報担当参与

- 緊急浚渫推進事業計画に基づく普通河川の浚渫を実施、令和6年まで毎年実施予定。
- 防災教育として一日防災学校の実施、ハザードマップを活用した防災学習会も実施。
- 避難所となる役場庁舎の耐震補強、非常用発電設備の整備。
- 避難行動の理解促進に向けた避難訓練を実施したい。
- ハザードマップ全戸配布済み。
- 水難溺死者供養之碑を、国土地理院の自然災害伝承碑データに登録中。
- 水害経験者が少なくなり、知識不足をどう補っていくのかが課題。